



◎第七回國際道路會議の順序等の決定

第七回國際道路會議に就ては曩に調査報告書を本會より同事務局へ送付したる處今回同事務局より會議の順序其他に關する決定事項を通知し來つた、左に其譯文をかゝげる。

來る一九三四年九月獨逸國政府主催の下に第七回萬國道路會議我國内に於て開催致すことと相成候條右御通報申上候、其の目的とするは既に一九〇三年巴里に於て開始せられ其の後一九一〇年「ブルツセル」に、一九一三年「ロンドン」に一九二三年「セビル」に、一九二六年「ミラン」

に、一九三〇年「ワシントン」に於て繼續し來りたる研究を更に續行致すことに有之候、同會議は來る一九三四年九月三日月曜日「ミューニツヒ」に於て開催致し同月八日土曜日に於て終了致す豫定に有之尙同會議と關聯致し萬國道路博覽會開催の手配も致し居り候。

本書狀に於ては左記事項に付御注意願上候

一 道路大會ノ一般的順序並ニ日時表

(右會議順序ハタゞ單ニ豫備的案内ニ過ギザルヲ以テ今後幾分修正セラル、コトアルベシ)

二 道路大會參加ノ爲滿サルベキ條件

三 道路大會參加者ニ認メラレタル旅行上ノ便宜

四 ホテル及其ノ宿泊料ニ覽表

五 前記道路博覽會ニ關スル報告

六 道路大會後舉行セラル、遊覽旅行

七 其ノ他ノ報告

道路會議ノ(暫定的)順序

一九三四年九月三日月曜日

午前十時 常任萬國道路委員會ノ開催(技術專門學校)

午後一時三十分 道路會議ノ開催(音樂堂)

午後五時 博覽會開會()

九月四日火曜日

午前九時 部門會ノ開會(技術專門學校)

午後二時 同 (同)

九月五日水曜日

午前九時 部門會ノ開會(同)

午後二時 同 (同)

九月六日木曜日

午前八時 エチレスバツハ橋、オバーアメルガーウ、

ガルミシユパルテンキルシエン及ワルシエ

ンセ水力發電所ノ見学ヲ兼ネ終日回遊旅行

九月七日金曜日

午前九時 ミュニツヒ附近ニ於ケル道路築造工事ノ視

察

午後二時 ミュニツヒ郊外ノ回遊旅行

九月八日土曜日

遊覽旅行及歡迎會

九月九日日曜日

獨逸内ノ視察旅行ノ開始、巡回旅行ヲ四班ニ分チ其ノ
何レカラ各々選定スルコト、旅行期間ハ八日乃至十日
ノ豫定、旅行途次ニ於ケル歡迎

九月十八日火曜日

伯林ヲ最後トシテ各班ノ巡回旅行ヲ終了

九月十九日水曜日

道路會議全體ノ終了 歡迎會

九月三日ヨリ九月八日マデノ道路會議續行中ニ配置セラ
レタル遊覽旅行視察旅行ニ付テハ無料、但シ其後ニ於ケル
旅行ニ付テハ此限りニ在ス

道路會議々題綱領

第一部門 築造及維持

第一問 車道築造ニ付「ワシントン」會議後ニ於ケル
「セメント」使用ノ進歩ニ就テ。

特ニ經濟的見地ト路面滑リ止メニ關スル對策ニ付論述
スベキモノトス

第二問 「ワシントン」會議以後ニ於テ道路ノ築造及維持ニ用ヒタル(A)「タール」(B)「ビチューメン」(C)「エマルジョン」ノ製造及使用上ノ進步ニ就テ。

特ニ之等結合材ノ經濟的使用ニ付探ラルル方法及機械的作業並ニ路面ノ滑リ止メニ關スル對策ヲ論述スルモノトス。

第三問 市街地道路(街路)又ハ地方道路ノ路面ヲ最も經濟的ナル條件ノ下ニ築造及維持スルニ適切ナル方策

一 採用スル方法

二 土質及氣候ノ特性ニ基キ其ノ方法ノ選定ニ對シ影響スル條件ノ檢討

第二部門 交通!! 使用及管理

第四問 (A)都市(B)地方及(C)踏切ニ於ケル交通ノ安全ヲ増進スル方法並ニ法令、規則及交通標識

第五問 運輸交通ノ經濟的見地ヨリ見タル車輛ト道路面トノ相互關係ノ分析

交通ニ起因スル凡ユル種類ノ損傷(振動噪音等)ヲ最小限度ニ減少スル爲ノ技術上、法令上、又ハ管理上ノ諸對策

第六問 左記事項ニ關シ現ニ施行中ノ規則如何

(一)車輛(自重及積載重量)ノ許容重量

(二)車輛及積載貨物ノ幅員及高さ

(三)車輛及積載貨物ノ長さ

◎道路職員必携編輯の爲め技術部 委員の會合

道路職員必携技術部委員會は、四月十八日午後五時より同八時迄、丸ノ内日本俱樂部に開催されたが、出席者は内務省から眞田所長、三浦技師、田中土木事務官、岩澤技師、永田技師、長久保技師、金子技師、池本技師、遠藤技師、村松技師、の諸氏省外から平山鐵道省技師、折坂千葉縣技

師、堀東京市技師、關根日本鋪道會社事務、森日本鋪道會社技師の諸氏にして「道路職員必携」の編輯方法並に「修路工夫必携」編輯方法に關して種々協議したり。

◎修路工夫必携執筆委員の依頼

「修路工夫必携」編輯に關する參考資料は、各府縣當局の御援助に依り全部集まつたので、この資料に基いて「修路工夫必携」を執筆すべく、左記の諸氏を執筆委員に依頼せり。

内務技師

岩澤 忠恭氏

愛知縣土木部長

川越 篤氏

宮城縣土木部長

七肥憲二郎氏

福岡縣土木部長

坂本 一平氏

長野縣土木部長

岩崎 雄治氏

東京市技師

堀 信一氏

茨城縣土木課囑託

白石 幹彦氏

◎全國交通網調査會

四月十一日午後五時丸の内帝國鐵道協會に於て開會す、出席委員は委員長中川正左氏の外委員は池田嘉六氏、大木利彦、小森純三(以上)武井群嗣、雪澤千代治、小野猛、片岡直道、横山靜夫、村井二郎吉の諸氏にして前回に引續き九州に於ける陸水空の交通網計畫に就いて關係者より報告あり續いて鐵道網、道路網、水路網、航空網の順序にて審議し次で横山委員より九州北部に於ける飛行場問題並關門海底トンネル等に付き意見を述べ、片岡委員よりは現在は大刀洗、大村、博多等の飛行場ありて東北地方に比すれば、聊か整備せるものゝ如きも尙笠ノ原も豫定地とせるが伊萬里灣など將來は飛行場に適するとの意見を述べ横山委員之に賛意を表し且朝鮮、滿洲及西伯利亞との關係に就て現在及近き將來に關しての私見を述べられ、自動車運輸事業と自動車道路問題に付ては片岡、池田兩委員の説明あり航水路に付ては小野委員より説明せられ其他重要問題に關し意見

を交換せられた、次回は二十一日午後一時開會して次の調査方針を打合せ豫定時刻に散會した。

新刊紹介

岩波全書第二十六輯・工學博士 宮本武之輔著

鐵筋コンクリート

岩波全書はポケット型百科全書として理學、工學、法律、經濟、文學の各部門に亘り、夙に讀書界に好評あるもの。

工學部に屬する本書は著者宮本博士が鐵筋コンクリートに關する自著を拔萃したポケット・ブック式に縮刷したもので、最も簡明的確に鐵筋コンクリートの概念を把握せしめる事を目的としたと言はれておる故に、材料、施工特性、理論、設計、基礎、擁壁、暗渠、桁橋の各編に亘つて凡ての主要點を網羅し、鐵筋コンクリートの施工及び設計に自ずる大綱を説述して間然する所がない。特に卷末に附表及圖表二三頁を加へて計算に便したのは本書の特色と言ふべく讀者に取つての至便な點である同博士の他著書と同じく

本書も亦江湖の好評を博する事を確信する。(二三五頁、定價八〇錢、岩波書店發行編輯子)

内務技師 工學士 岩澤忠恭氏著 「道路の構造と鋪裝」

著者は、内務省土木局國道改良係の擔當技師で、斯界の權威者であるが、今回十餘年間内務省土木局に於て實務を擔當されて得たる豊富な知識と經驗とに基き其蘊蓄を傾倒して著述せられたるものが本書である。

本書は、著者が序文に於て述べられてゐるが如く、「主として實地に道路技術に携はる人々のために出来るだけ分り易く而も内容も相當廣く尙實際の役に立つ様にと念願したのである。」といふ敬虔な態度を保持せられて、道路の構造も直ちに實地に應用し得られる様に之れを表に示され、又道路の鋪裝に就ても現場に於ける施工上の注意、材料の選擇等詳細に論述されてゐる。

本書の内容は、第一章序言、第二章道路の設計、第三章排水、第四章基礎、第五章土砂道及び砂利道、第六章碎石

道、第七章瀝青質鋪裝道、第八章セメントコンクリート道第九章塊鋪裝道、第十章鋪裝の比較選定にして、附録にはアスファルトコンクリート鋪裝道示方書、基礎用アスファルト鋪裝道示方書、瀝青乳劑鋪裝道示方書、塊鋪裝道示方書が添附されてゐる。

従つて本書が道路技術家は勿論斯界に關係ある諸彦の好參考書たることは疑ひを容るゝ餘地がないといふも過言ではあるまい。敢て諸彦の一讀を進言する次第で道路工作に關する著書は世上決して尠くないが、其簡易なるものは通俗に失し、其高尚なるものは十分なる學識を備ふる者でなければ難解を感ずる。然るに本書は著者が最も心力を傾注して其文を平易にし其解説を正しくして叙説を順序立て、苟くも道路工作の實務に當る者をして一讀以て執務上の指針たらしめて居ると信ずるに足る。道路工作は其材料の選擇と工作の巧妙と經濟的効果に就いて深く考慮を要することとは敢て言を費すを待たず明かな所である。本書は即ち此等の事項に關して克く其指導の使命を完ふするものである

と謂ふもあながち著者に對する阿諛の言ではあるまい、吾人が江湖に推獎するに吝かならざる所以は叙上の理由あるに因るのである。

(發行所 日本文化協會 定價 三圓 送料二十一錢)

増井幸雄氏著 「交通經濟總論」

著者増井幸雄氏は慶應大學經濟學部に於ける故瀧本博士に次での重鎮にして且我國交通學界の權威者たることは周知の事なるが、數年前「交通總論」を著述せられて世の高評を博せられたる處今回夫れを改訂増補せられ書名を「交通經濟總論」と改名して公刊せられた。

著者は今回の改版の機會を利用して舊書の不備を補ふ爲に多方面に涉りて相當の分量を増補訂正せられたもので著者の序文にも述べられたる如く第五章に二項目第六章第二節に二項目同第三節に一項目合せて五項目約三千頁を追加せられ、舊書の冗長の嫌ある所は簡潔にし、辭句を修正して以て通讀上の便に資し、最新の統計を加へ尙ほ脚註をも

増加して研究に便ならしむる等舊書に比して面目を一新にしたとの観がある。

斯く増補改訂を加へたるも著述の目的は依然交通の本質、發達、手段並之に關聯して生ずる諸現象を系統立て説明叙述するに在つて著者の意は交通に關する實際問題を取扱に「何事をも強要せず、何事をも提案せず唯説明するのみ」に外ならない態度に出で其謙讓さは序文を一讀するに於て十二分に諒解し得らるゝ處である。

本書は其目次に見らるゝ如く交通に關して頗る廣汎なる範圍に涉り事實に即して克く排列し克く説明し殆んど遺漏なきの感を懷かしむるのである。更に著者は「舊版の公刊以來交通に關する文献は内外ともに可なり増加した、又交通上の施設にも多大の變化が生じて居る。而も予は凡て眼に觸れた文献は概ね之を通讀し、重要な新施設には相當の注意を拂つて熟考を重ねたが少くとも理論の點に於ては本書所述の諸點に關し確信を加へた所はあつても未だ之に變更を加へるの必要を感じるに至つて居ない」と述べられて

居るを見ても其努力精進の甚深なるを推知するに足るのである、若し夫れ其博識と確信とに至つて本書を通讀するならば直ちに之を感得するものである、然るに吾人をして老婆心に出づるを許さるゝならば航空運送機關に關しても更に百尺竿頭一步を進められて叙述し、交通機關に對する國家の免許に關する立法の理由が援助に止まらざる點に論及し、交通機關の創設の費用の資源に付ては經濟的見地から、より廣き考察を與へられ國家の干涉事務と國家經營事務との機關を異にするの必須的理由を述べられ併せて勞働爭議防止方策に關しての研究を加へられて讀者指導上に一步を進められんことを切望するものである。(丸善發行 定價三圓八〇)

改正自動車取締令解説

内務事務官 増田甲子七
内務技師 小野寺季六 共著
内務屬 原仙吉

昨年八月十八日公布同年十一月一日から施行の改正自動

車取締令は舊自動車取締令(大正八年一月内務省令第一號)の全般に亙つて根本的に改正された。舊取締令は三十七條なりしも、改正取締令では九十二條となり規定の内容體系を整へ、第一章通則、第二章構造裝置、第三章検査、第四章運轉免許、第五章用法、第六章車輛の牽引、第七章就業免許、第八章罰則、第九章には經過規定が附則となつて居るが本書は先づ其最も新味のある第一章第二章第三章に就て極めて懇切に平易に解かりよく説明し第四章以下免許に於ては從來の甲種乙種を廢し車體の分類に應じ普通免許、特種免許、小型免許とし且つ運轉免許を無條件に全國的に有效としたこと、公衆用乗用車の運轉者に就き就業免許の制度を設けたこと、速度の制限、騒音の取締、交通上の危険防止或は道路に於ける自動車の用法、其他牽引自動車に關する特別規定等に就き殊に丁寧親切に解説してある。著者は現に内務省警保局に在つて交通警察事務を擔當し實務と學理とに通曉し且改正法の起案の任にも當つた關係ある諸氏である故に其の解説は克く立法の主旨を闡明し法文の意

義を明確に解釋し遺漏なきを得て居る、殊に卷末に自動車取締令、改正自動車取締令一覽表、舊自動車取締令、道路取締令、道府縣手数料金及附屬の省令通牒等をも附録として掲載してあるから法令に關しての豫備智識を具へざるものも容易に理解し得べく實に重寶なる著書である。苟くも自動車の運轉其他交通に關係ある諸彦は本書を座右に備へられん事を敢て獎言する。(良書普及會發行定價壹圓八拾錢)

巴 藤

遅れ咲く花に

ある夜の雨と風

洋装の和装の

いつれ青すだれ

飛行機の腹に

若葉に夕焼けて